

岩手県立 博物館 だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum

岩手県立博物館ホームページアドレス
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

2015.12 No. 147

目次／特別展「発掘された日本列島2015」表紙／いわて自然ノ
ート「発見の連続！岩手県の植物相調査」p.2-3／展覧会案内 特
別展「発掘された日本列島2015」p.4-5／展覧会案内 特別展「海
に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生～」p.6
／活動レポート「第7回岩手県立博物館まつり」「第70回自然観察
会」p.7／インフォメーションp.8

E x h i b i t i o n o f
E x c a v a t i o n s i n
t h e J a p a n e s e
A r c h i p e l a g o 2 0 1 5



(栃木県甲塚古墳出土埴輪)

発掘された 日本列島 新発見考古速報 2015

- 特集1 復興のための文化力
—東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護—
特集2 全国史跡整備市町村協議会50周年記念

平成28年1月14日(木)～2月28日(日)

■いわて自然ノート

発見の連続！岩手県の植物相調査

専門学芸員 鈴木 まほろ

■『岩手県植物誌』について

『岩手県植物誌』という本を御存知でしょうか。1970年（昭和45年）に岩手県教育委員会が刊行したものです。当時、岩手県内に生育することが知られていた維管束植物（種子をつくる植物とシダ植物）のすべてについて、その特徴や県内の分布などが一種ずつ記述されています。また、岩手県の植物相の全体像と特色を示し、気候や土壌との関連についても解説しています。刊行から半世紀近く経っていますが、現在でも大いに参考になる、素晴らしい本です。執筆と編集を行ったのは「岩手植物の会」という植物研究者・愛好家の団体でした。

こうした植物誌は、世界中で刊行されています。日本には、都道府県や市町村単位の植物誌の他に、英語版の専門的な植物誌「フロラ・オブ・ジャパン」（講談社、1993年から分冊で刊行中）など、日本列島全体の植物相について記したものもあります。

■『岩手県植物誌』改訂のための活動

1970年刊行の『岩手県植物誌』には、岩手県に生育する植物として、2621種の名前が掲載されています。このリストは、1970年以前の岩手に生育していた植物のほぼ全てを網羅したものです。しかし1970年代以降、土地開発や交通・流通の発達に伴い、岩手県には新たな外来種が多く入ってきました。一方、生育地が失われ、絶滅した在来の植物もあります。さらに、この半世紀の間に植物の分類が進み、当時とは異なる名前に変更されたり、新種が発見されたりもしています。

こうした様々な変化を反映させた『岩手県植物誌』の改訂版を作成するという目的で、全県的な植物相調査を行う会が

8年前に作られました。先述の「岩手植物の会」を母体として生まれた「岩手県植物誌調査会」（以下、調査会）です。当館は、調査会の事務局を務めると同時に、主な活動場所となっています。

■岩手県植物誌調査会による現地調査

これまでに調査会が行ってきた主な活動の一つは、全県的な現地調査と押し葉標本の作成です。岩手県では1980年代以降、押し葉標本を作って博物館へ納める人が減ってしまい、標本という客観的な証拠に基づいた植物の記録がとてもなくなくなっていました。

そこで調査会は、2009年からグループによる現地調査を始めました。月1回、4～6名からなる班を3つ編成し、それぞれが県内のどこかへ車で出かけ、どんな植物が生えているかを調べてリストを作るとともに、標本を採集します（採集は許可を得て行っています）。調査から帰って来たら、みんなで押し葉標本作りです。こうして、これまでに1万点以上の標本を新たに作成しました。また、会員が個人で集めた標本も多くあり、これらを合わせると、新たに収集した標本は約2万点に上ります。

■現地調査によるフォーリーガヤの発見

こうした現地調査により、岩手県の植物リストには新しい種がいくつも加わりました。最近の大きな成果は、イネ科のフォーリーガヤを見つけたことです。

フォーリーガヤという名前は、明治時代にフランスから来日したキリスト教宣教師、ユルバン・ジャン・フォーリーにちなむものです。フォーリーはきわめて熱心な植物採集家でもあり、日本で神父として働きながら、北海道や青森県を中心に東アジアで非常に多くの植物を採集

し、母国へ送りました。フォーリーガヤもそのひとつです。

フォーリーガヤは、国内では北海道と長野県のみで記録されており、多くの植物図鑑にもそのように書かれています。生育地が限られるため、環境省のレッドデータブックでは最も絶滅危険度が高いランク（CR）に位置づけられています。その植物が、岩手県で発見されたのです。

今年の5月下旬、調査会は下閉伊郡岩泉町大川の山の中で現地調査を行いました。後日、採集してきた標本を調べている時、中に含まれるイネ科植物の特徴が、図鑑に書かれたフォーリーガヤの特徴と全く同じであることに気がきました。しかし、様々な文献を調べてみても、過去にフォーリーガヤが東北地方で見つかったという記録は一つもありません。

私は「こ、これはひょっとして大発見?!」とドキドキしながら、慎重を期して、イネ科植物に詳しい神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員の方に標本を送り、確認をお願いしました。この博物館には、北海道や長野県産のフォーリーガヤの標本が収蔵されているのです。



岩泉町で採集したフォーリーガヤの標本。台紙の大きさはA3判。

すると間もなく「これは間違いなくフォーリーガヤです」とのお返事があり、嬉しくて躍り上がりました。

現地でこの標本を採集した人は、まさかそんなに希少な種とは思ってもみず、他の多くの種と一緒にになげなく採っただけだったので、生えていた場所もよく覚えていないくらいでした。そこで私達は7月に再び現地を訪れ、フォーリーガヤを探し出し、その様子を詳しく記録しました。この発見については、植物分類学の専門誌に論文を投稿中です。

■新たな外来種の発見

岩手県の植物リストには、他にも新しい種が続々と追加されています。特に、外来の植物は毎年いくつもの新しい種が追加されます。作物の栽培や酪農畜産、園芸や緑化など、様々な目的で外国産の植物が日本に次々と導入されては、野外に逃げ出し定着しているからです。

オオバコ科（古くはゴマノハグサ科）のセイヨウグンバイツルの帰化（野生化）は、調査会会員である小守一男さんの調査により、日本で初めて確認されました。本種は通常、観賞用・薬用に栽培されるヨーロッパ原産の植物です。小守さんは、この種が岩手郡葛巻町の牧草地の脇で繁殖しているのを発見し、報告しました。

また、日本で久しぶりの発見となったのがゴマノハグサ科のヒナウンランです。これは1993年に千葉県の海岸で発見されたヨーロッパ原産の外来種で、日本では他に記録がありませんでしたが、2012年に調査会が行った海岸植物の調査により、釜石市の海岸で発見されました。そのすぐ後に、当館の近所の砂利道でも見付き、以後は盛岡市内で次第に増えているのが観察されています。



■気付かれにくい存在

地味な姿ゆえになかなか存在が認識されない植物も、採集し標本にしておくことで記録に残ります。北米原産の帰化植物であるイネ科のコネズミガヤが岩手県に生育していることが初めて分かったのは、2011年の冬です。当館に近いダム湖の公園で、イネ科勉強会で使う材料を集めていたところ、見慣れないイネ科の雑草に出会いました。よく調べてみたら、それが岩手県未記録のコネズミガヤであることが分かったのです。しかしその後、当館で収蔵している古い標本の中からも本種が見つかり、コネズミガヤは実は数十年前にはすでに岩手県に入ってきていた、ということが分かりました。

■植物誌の改訂をめざして

博物館は、このように多くの記録とその証拠となる実物資料を日々蓄積しているところです。過去の標本も新たな目で見直せば、また多くの発見があるに違いありません。そこで調査会では、現地調査に加えて、県内の博物館に収蔵されて



左：セイヨウグンバイツル
上：ヒナウンラン

いる過去の標本の調査も始めようとしています。

首都圏と違って人口が少なく、植物分類学の専門家が一人もいない岩手県で、ボランティア活動によって『岩手県植物誌』を改訂しようとするのは、なかなかの難事業と言えます。そこでこれまでの成果のひとつのまとめとして、岩手県産の維管束植物のリストを来春までに公開する予定です。これを手がかりに、さらに多くの情報や標本が集められることを期待しています。身近な植物に興味のある方、野外や博物館での調査活動に関心のある方は、御一緒に調査会の活動に参加してみませんか。

■トピック展「東北の押し葉標本」

12月1日～13日 当館特別展示室

本稿で紹介した植物をはじめ、調査会と東北植物研究会の会員が収集した標本を展示します。

◆関連講演会（兼日曜講座）

12月13日（日）13:30～16:00

講堂 講師：志賀隆氏（新潟大）ほか

■展覧会案内

特別展 「発掘された日本列島2015」展

会期：平成28年1月14日(木)～2月28日(日) 会場：いわて文化史展示室

全国では、毎年8,000件近い発掘調査が行われています。遺跡の発掘調査現場では日々新たな発見があり、稀に歴史的発見の瞬間が訪れることもあります。

文化庁は、全国的に注目された発掘調査の成果をより多くの方々にできるだけ早くご覧いただくことを目的とし、平成7年度から「発掘された日本列島」展を実施しています。「発掘された日本列島」展は、毎年全国各地を巡回展示しており、当館では平成10年に「発掘された日本列島1998」展を開催しました。今回当館に巡回するのは、実に17年ぶりのことです。

本展覧会は、新発見考古速報として旧石器時代から近代までの全国19遺跡の速報展示と、平成23年度から継続している「東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査成果」に加え、全国史跡整備市町村協議会50周年記念展示を行います。

■新発見考古速報

【旧石器時代】

長崎県佐世保市史跡福井洞窟から出土した、旧石器時代から縄文時代へ移行変わる時期の資料群を展示します。福井洞窟の発掘調査では深さ5.5m・15層に分層できる地層の堆積が確認され、旧石器時代から縄文時代の初めにかけて約6,000年間にわたる生活の痕跡が見つかりました。発見されたのは、カミソリの刃のような細石刃などの石器4万点、縄文時代最初期の土器約200点のほか、旧石器時代の炉跡です。洞窟遺跡で旧石器時代の炉跡が見つかったのは、国内初の発見です。

【縄文時代】

富山県小竹貝塚、岩手県けや木の平団地遺跡、宮城県北小松遺跡出土品を展示します。

岩手県からは、滝沢市けや木の平団地遺跡出土人体文付土器が出品されています。けや木の平団地遺跡は約4,000年前の遺跡で、人体文付土器は墓跡群の近くで見つかりました。人体文が描かれる土器は稀であること、そして墓域から出土したことから、祭祀に用いられた特別な道具の可能性が考えられています。



人体文付土器
岩手県けや木の平団地遺跡

【弥生時代】

大阪府東奈良遺跡、福岡県高三瀨遺跡、静岡県松東遺跡出土品を展示します。



小銅鐸 福岡県高三瀨遺跡

弥生時代の3遺跡はいずれも銅鐸を中心に展示します。地域毎の銅鐸祭祀の違いをご覧ください。

【古墳時代】

滋賀県中沢遺跡、岡山県上相遺跡・鍛冶屋途古墳群、栃木県甲塚古墳出土品を展示します。

注目は甲塚古墳出土の埴輪です。国内初の発見となる、布を織る様子を表した機織形埴輪2点のほか、人物埴輪・馬形埴輪を展示します。会場では、古墳後円部をイメージした弧形展示台にこれらの埴輪を並べます。特別な埴輪を裏側までご覧いただける、またとない機会です。



機織形埴輪 栃木県甲塚古墳

【古代】

茨城県瓦塚窯跡、福岡県大宰府関連遺跡群、千葉県上谷遺跡、秋田県史跡大鳥井山遺跡出土品を展示します。



越州窯系青磁(唾壺)
大宰府関連遺跡群堀池遺跡

大宰府関連遺跡群は日本を代表する古代都市遺跡です。大宰府は大宝律令(701年)によって確立した古代地方官衛(役所)跡で、その南側には条坊制により整然と区画された町が作られています。近年、条坊制の南外にある堀池遺跡で平安時代前期の墓が見つかり、唾壺が出土しました。越州窯系青磁の唾壺が完全な形で出土したのは、国内初です。

【中世】

宮城県瑞巖寺境内遺跡、福井県越前窯跡群、愛知県史跡小牧山、京都府大雲院跡出土品などを展示します。

京都府大雲院跡から、関白豊臣秀次を弔う供養塔が出土しました。秀次は秀吉の養子となって関白太政大臣に就任したものの、秀吉に実子秀頼が誕生すると謀反の疑いをかけられ高野山へ出家させられます。秀次は、その後秀吉との和解を試みるもかなわず、秀吉の命により高野



豊臣秀次供養塔 京都府大雲院跡

山で切腹し、非業の死を遂げました。

【近代】

茨城県シャトーカミヤ旧醸造場施設出土品を展示します。シャトーカミヤ旧醸造場施設は、実業家の神谷傳兵衛が日本初の本格的ワイナリーの創設を目指し、明治36年に竣工した煉瓦造りの建造物です。多数の耐火煉瓦や明治14年に発売された未開封のワインが出土しました。134年を経たワインは、一体どのような味わいなのでしょう。

■特集Ⅰ 復興のための文化力 - 東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護 -

東日本大震災からもうすぐ5年目を迎えるようとしています。岩手県・宮城県・福島県では復興事業に伴う発掘調査が急ピッチで続けられています。

岩手県内の復興発掘調査の成果は『海に生きた歴史』展で詳しく紹介しますが、列島展では福島県東町遺跡・天神原遺跡・天化沢A遺跡、宮城県熊の作遺跡・高大瀬遺跡、岩手県西平内I遺跡・平清水III遺跡出土品を展示します。



蕨手刀 野田村平清水III遺跡

野田村平清水III遺跡は奈良・平安時代の大規模な古代集落跡で、集落内の土坑墓からはほぼ完全な状態の蕨手刀が出土しました。蕨手刀は長さ62.6cmで、鞘や青銅製の金具が良好な状態で残っていました。製造年代は飛鳥時代末～奈良時代前半と推定されています。

■特集Ⅱ 全史協50年のあゆみー全国史跡整備市町村協議会50周年ー

全国史跡整備市町村協議会とは、史跡・名勝などの文化財を保存し、整備・活用していくことを目的として発足した市町村の団体です。協議会が行ってきた50年間の活動を紹介します。また、福岡県ウトグチ瓦窯跡、島根県史跡益田氏城館跡出土品、史跡復元模型を展示します。

『発掘された日本列島2015』展は、国内最大級の考古学発掘調査成果速報展です。今回出品される資料の中に、将来的に国宝や国の重要文化財に指定されるものがあるかもしれません。また、当館が東北地方では唯一の会場で、巡回最後の会場です。この機会に、皆様の目で私達の国の歴史を確かめてください。

(学芸第二課 専門学芸員 八木勝枝)

※『発掘された日本列島2015』展は特別入館料が必要です。

一般600円(400円) 学生400円(300円) 小学生以上高校生以下200円(100円) ()内20人以上の団体料金
特別入館料で常設展もご覧いただけます。

【関連事業】※『海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生～』展と共通

■展示解説会 ※『発掘された日本列島2015』展会場は要特別入館料、『海に生きた歴史』展会場は要通常入館料
①1月23日(土) ②2月13日(土) ③2月27日(土) 各14:30～15:30

■講座 ●記念講演会 2月28日(日) 13:30～15:00 当日受付 聴講無料
水ノ江和同氏(文化庁文化財調査官)「東日本大震災と埋蔵文化財ー「発掘された日本列島2015」展を中心にー」
●県博日曜講座 13:30～15:00 当日受付 聴講無料
1月24日(日) 八木勝枝(当館学芸員)「海に生きた歴史①ー縄文・弥生ー」
2月14日(日) 羽柴直人(当館学芸員)「海に生きた歴史②ー古代～近代ー」

■展覧会案内

特別展 海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生～

会期:平成28年1月14日(木)～3月6日(日) 会場:特別展示室

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた三陸沿岸。人々の暮らしを立て直すため、数多くの土木事業が必要となり、それに付随して埋蔵文化財調査の推進が急務とされてきました。復興の先達としておこなわれる遺跡発掘調査は、土地の来歴を探り、地域の先人の歴史を明らかにする作業であり、新たな営みを再開する礎として必要不可欠な事業です。この埋蔵文化財発掘調査自体を「復興発掘調査」と呼称することも不適切ではないと考えます。

岩手県の海岸線総延長は南北711kmにも及び、「復興発掘調査」の件数、調査面積も莫大なものとなっています。岩手県内の埋蔵文化財担当職員と全国各地から派遣の支援職員、そして地域の方々の努力により調査が日々進められています。そして、「復興発掘調査」の成果により、海とともに生きた地域の歴史が日々、明らかになってきているのです。

本展示は、復興発掘調査の状況と成果をもとに、海に生きた岩手県沿岸部の先人の歴史を紹介し、これからも海とともに生きる地域の営みの「礎」を呈示することを目的とするものです。

展示構成

展示構成は、5章からなっています。

1 海に生きた一万年の歴史

考古学の基本資料となる土器、陶磁器の変遷を示すことで、海に生きた1万年の歴史を概観します。実際に復興発掘調査で出土した土器、陶磁器を展示し、調査がおこなわれた遺跡の年代が多岐にわたることも示します。

2 海とともに生きた生活

- 縄文時代～弥生時代 -

縄文時代早期から縄文時代晩期、そし

て弥生時代遺跡の復興発掘調査の成果を展示します。

「沿岸部最初期の定住集落」外屋敷ⅩⅨ遺跡(久慈市・縄文時代早期)、「南北交流の接点」力持遺跡(普代村・縄文時代前期～中期)、「大槌湾に面した標高0m集落」赤浜Ⅱ遺跡(大槌町・縄文時代中期～後期)、「山田湾徒歩1分標高2m集落」浜川目沢田Ⅰ遺跡(山田町・縄文時代中期～晩期)、「山の上の弥生集落」浜岩泉Ⅲ遺跡(田野畑村・弥生時代)他を展示します。

またトピックとして、「貝塚」、「信仰」、「製塩」を取り上げます。トピックでは、復興発掘調査に限定せず、三陸の歴史を特色付ける考古資料も展示します。



山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡 写真:(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

3 海を介した歴史の展開—古代～近代—

古墳時代から近代に至る遺跡の復興発掘調査の成果を展示します。

「昆布貢納の閉村か」津軽石大森遺跡(宮古市・7世紀～平安時代)、「海の平泉」川原遺跡(釜石市・12世紀)、「海の平泉北へ」田鎖車堂前遺跡(宮古市・12世紀)、「太平洋と日本海の陶器の結節」伏津館(野田村・中世)、「三陸船運の拠点大槌」町方遺跡(大槌町・近世)他を展示します。トピックとして、「製鉄」、「戦争関連」を展示します。「戦争関連」では、復興発掘調査(浜川目沢田Ⅰ遺跡)で出土した山田湾空襲の際の米軍の機銃弾も展

示します。



野田村伏津館跡出土陶磁器 写真:(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

4 東日本大震災津波と埋蔵文化財

東日本震災の津波による埋蔵文化財と関連施設の被害を紹介します。そして震災直後におこなわれた県内埋蔵文化財担当職員を中心とした埋蔵文化財のレスキュー活動も紹介します。合わせて被災した考古遺物や関連資料も展示します。

5 復興発掘調査に携わった人々

全国から岩手県内での復興発掘調査に支援いただいた派遣職員の方々の声を紹介いたします。支援派遣職員の方々の声が直接届くように、パネル原稿の記入を各々の方々に直接お願いしました。沖縄県から北海道にいたる全国の方々が体感した復興発掘調査、三陸の海を示します。

本展示は単に「復興発掘調査」の内容やその苦勞を示すのではなく「復興発掘調査」によって明らかになった、海とともに生きた過去一万年の三陸沿岸の歴史を示すことを目指します。

(学芸第一課 主任専門学芸員 羽柴直人)

■事業報告

第7回博物館まつり

平成27年10月4日(日)

第7回博物館まつりは、2年ぶりに10月の開催となり、2400人以上のお客様で終日にぎわいました。県外からも多数お越しいただいたようです。

「化石レプリカづくり」や「まが玉づくり」、「土版づくり」、「缶バッジづくり」などさまざまな体験を楽しんでいただきました。

昨年度から企画された「たんけん！植物園・岩石園」も賑わい、参加した多くの方に好評でした。



たんけん！植物園のようす

岩手県立博物館自慢の民家で行われた「昔あそび」コーナーは博物館友の会のボランティアの協力で毎年開かれています。会場の南部曲屋で「割り箸鉄砲づくり」や「イタドリ笛」、「折り紙」、「ぬり絵」などに親しみました。

芝生広場では、全国高総文祭の伝承芸能部門で第2位に輝き、昨年パリ公演も行った岩泉高校郷土芸能同好会のみなさんによる公演が2回にわたり行われました。演目は五穀豊穰、家内安全、豊漁そして震災復興を祈願する「中野七頭舞(なかのななづまい)」です。芝生広場を囲む博物館前のレンガ階段を大勢の人が埋め、気魄溢れる演舞に見入っていました。

早速リズムをとって、高校生の演舞を真似る子どもも見られました。

他にも石臼ひきや変身のコーナー、クイズラリーなどを用意しました。

爆弾低気圧や台風など天候が心配されましたが、好天に恵まれ、地元大学生を含め54名のボランティアの協力で無事に終わることができました。皆様ありがとうございます。

今後もより一層よい事業にして参ります。来年も是非お越し下さい。



勇壮な中野七頭舞

(学芸第二課 専門学芸調査員 笠原雅史)

■事業報告

第70回自然観察会 北秋田市森吉山ノロ川流域にて

名瀑・「桃洞の滝」を訪ねる 平成27年9月27日(日)

□開館以来、毎年2度開催してきた自然観察会も、70回を数えました。節目の回ということもあり、観察地を秋田県北秋田市森吉山と県外に設定しました。

今回トレッキングを行った北秋田市森吉山ノロ川流域は、本州では幻のキツツキといわれるクマガラの姿を求めて、筆者が数十年、フィールドにしている秘境・人気スポットです。それだけにバス代が高額にもかかわらず、受付を開始して、4日後には定員に達しました。

時期が9月最終の日曜日と紅葉にはまだ早いながら、プロガイド・福土功治君の先導で、参加者30名がうっそうとしたブナの森を通過していきます。もちろん、通過コースの周辺にはクマガラの旧営巣地もあり、奇妙な鳴き声のアオバト

や綺麗なアカショウビンなども生息しています。ノロ川沿いにイワナの魚影とブナハリタケやナメコ等の天然キノコを確認しながら、片道4kmの行程を約1.5時間、往復3時間ほど歩きました。

残念だったのは、当日100%晴れの予報にもかかわらず、雨が降り出し、さらには雷鳴が林内に轟き、退散すべきか？判断に迷ったことです。

到着地の桃洞の滝は、大小約24の滝が点在する森吉山流域でも、名瀑と呼ばれ、外見が桃に似ていることからそのように命名されています。一同、感嘆の声をあげながら、めいめいに記念撮影後、集合写真を撮りました。

朝6:45に博物館第二駐車場を出発後、帰館は18:45という厳しい日程ながら、



皆、無事にそれでいて、元気になっていました。車内から見た中秋の名月のおかげかもしれません。アンケートもほぼ100%満足に近い数値をいただき、第70回の自然観察会を終了しました。

旅行業法改定に伴うバス料金の値上げ等、遠距離での観察会の難しさという課題を残しましたが、今後ともますます創意工夫した観察会を運営していきます。

(学芸部長 藤井忠志)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈2015.12.1～2016.3.31〉

お知らせ

●展示室の一部休止と年末年始の休館について
 年末年始は12月28日(月)から1月4日(月)まで休館します。
 平成27年11月30日(月)から平成28年3月25日(金)までいわて文化史展示室の通常展示を休止します。

展覧会

◆トピック展「東北の押し葉標本」
 平成27年12月1日(火)～12月13日(日) 特別展示室 要通常入館料
 押し葉標本は、時代や環境の変化を映し出す重要な資料です。本トピック展では、東北地方の市民調査で採集された押し葉標本の中から、新しい発見につながったものや、津波跡地に生えた植物などを中心に展示します。

■日曜講座 当日受付 聴講無料 13:30～16:00
 12月13日13:30～15:00「日本の水草を調べる・分類する・守る」
 志賀隆氏(新潟大学准教授)
 15:00～16:00「岩手県の植物相～分かったこと、分からないこと～」
 鈴木まほろ(当館学芸員)

◆特別展「発掘された日本列島2015」
 平成28年1月14日(木)～2月28日(日) いわて文化史展示室
 要特別入館料(大人600円、学生400円、高校生～小学生200円。常設展示もご覧いただけます。)
 全国では毎年8,000件近い発掘調査が行われています。近年特に注目された28遺跡572点についてご紹介します。

■展示解説会 いわて文化史展示室 要特別入館料 各回14:30～15:00
 第1回:1月23日(土) 第2回:2月13日(土) 第3回:2月27日(土)

◆特別展「海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生～」
 平成28年1月14日(木)～3月6日(日) 特別展示室 要通常入館料
 復興発掘調査の状況と成果をもとに、海に生きた岩手県沿岸部の先人の歴史を紹介します。

■展示解説会 特別展示室 要通常入館料 各回とも15:00～15:30
 第1回:1月23日(土) 第2回:2月13日(土) 第3回:2月27日(土)

■日曜講座 当日受付 聴講無料 各回とも13:30～15:00
 1月24日(日)「海に生きた歴史①-縄文・弥生-」
 八木勝枝(当館学芸員)
 2月14日(日)「海に生きた歴史②-古代～近代-」
 羽柴直人(当館学芸員)

■記念講演会(兼県博日曜講座) 当日受付 聴講無料
 2月28日(日) 13:30～15:00
 「東日本大震災と埋蔵文化財-「発掘された日本列島2015」展を中心に-」水ノ江和同氏(文化庁文化財調査官)

◆特別展「近代へのとびら-大島高任の挑戦-」
 平成28年3月26日(土)～5月15日(日) 詳細は次号で紹介いたします。

冬の写生会

写生会 12月19日(土)～1月17日(日) 幼児・児童対象
 展示会 1月23日(土)～2月14日(日)
 博物館からの景色や展示資料をお絵かきしましょう。(クレヨンや色鉛筆はご持参ください。)

冬期文化講演会

2月5日(金) 13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料
 「新生代化石記録が語る過去2000万年間の岩手県の環境変動」
 小笠原憲四郎氏(筑波大学名誉教授)

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00(12月13日は13:30～16:00)
 講堂・教室 当日受付 聴講無料
 当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
 ＊展覧会関連講座
 ＊12月13日 13:30～15:00「日本の水草を調べる・分類する・守る」
 志賀隆氏(新潟大学准教授)
 15:00～16:00「岩手県の植物相～分かったこと、分からないこと～」
 鈴木まほろ(当館学芸員)
 12月27日「国体今昔物語-明治神宮競技大会から国民体育大会へ-」
 原田祐参(当館学芸員)
 1月10日「たたら吹き製鉄から洋式高炉への道程-橋野高炉の歴史的な位置を考える-」
 赤沼英男(当館学芸員)
 ＊1月24日「海に生きた歴史①-縄文・弥生-」
 八木勝枝(当館学芸員)
 ＊2月14日「海に生きた歴史②-古代～近代-」
 羽柴直人(当館学芸員)
 ＊2月28日「東日本大震災と埋蔵文化財-「発掘された日本列島2015」展を中心に-」
 水ノ江和同氏(文化庁文化財調査官)
 3月13日「ジオパークで再発見!三陸の魅力」
 杉本伸一氏(三陸ジオパーク推進協議会)

*3月27日「日本史の中の釜石鉱山」 笠原雅史(当館学芸員)

週末の催し

◆ミュージアムシアター
 毎月第1土曜日 13:30～15:00前後 講堂 当日受付 視聴無料
 12月5日 幼児～小学生向け(のべ75分)クリスマス関連作品
 ミッキーマウスの楽しい冬《10分/アニメ》
 サンタさんは大いそがし《12分/アニメ》
 ミッキーマウスのメリークリスマス《30分/アニメ》
 くまのおいしやさん すてきなコンサート《23分/アニメ》
 1月9日 幼児～小学生向け(のべ108分)冬休みスペシャル
 なかよしおぼけ《42分/アニメ》 げんごのづかい《26分/アニメ》
 そくそく村のオバケたち《40分/アニメ》
 2月6日 幼児～小学生向け(のべ76分)「おに」関連作品
 福は内!鬼は外!《11分/アニメ》 鬼から《27分/アニメ》
 新ないた赤おに《20分/アニメ》 おにたのほうし《18分/アニメ》
 3月6日 一般向け「いわて」関連作品
 こつなぎ 山を巡る百年物語《120分/実録》

◆チャレンジ!はくぶつかん
 毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付
 チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!
 12月12日・13日・19日・20日 テーマ:植物
 1月9日・10日・11日・16日・17日 テーマ:さる
 2月13日・14日・20日・21日 テーマ:昔
 3月12日・13日・19日・20日・21日 テーマ:鉄

◆たいけん教室～みんなでためそう～
 毎週日曜日 13:00～14:30 幼児(保護者同伴)・小学生20名程度
 ささまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。
 ※2月21日「こはくの玉づくり」は有料500円、その他は参加無料
 ※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(13:00～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。
 ※1月10日みずきだんごの申し込みは、12月27日と1月5日～10日に受け付けます。

12月	6日 まゆで干支(申)づくり 13日 ごんげんさまのカスタネット 20日 松ぼっくりのXmasツリー 27日 かんたん門松づくり	1月	3日 お休み 10日 みずきだんご 17日 まゆで干支(申)づくり 24日 縄文人のイヤリング 31日 石のオリジナルはんこ
2月	7日 土版づくり 14日 ほかほかカイロ 21日 こはくの玉づくり(有料) 28日 おひなさまづくり	3月	6日 化石のレプリカ 13日 手づくり万華鏡 20日 まが玉アクセサリ 27日 スライムであそぼう

冬のワクワク!ワークショップ

平成27年12月23日(水・祝) 受付時間 9:45～11:30 / 13:00～15:00
 当日受付(予約不要)参加無料 ※混雑時はお待ちいただくことがあります。
 「化石のレプリカ」か「まが玉アクセサリ」、どちらかのプログラムを選んで工作しよう。所要時間約35分。詳細はお問い合わせください。
 定員:各プログラム100名 対象:幼児(保護者付き添い)～小学生

定時解説

平日～土曜日 13:30～14:30 / 日曜日 10:30～11:30
 解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご希望におこたえています。

利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)
 ■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 ■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料
 ()内は20名以上の団体割引料金
 ※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
 ※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第147号 平成27年12月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
-------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------